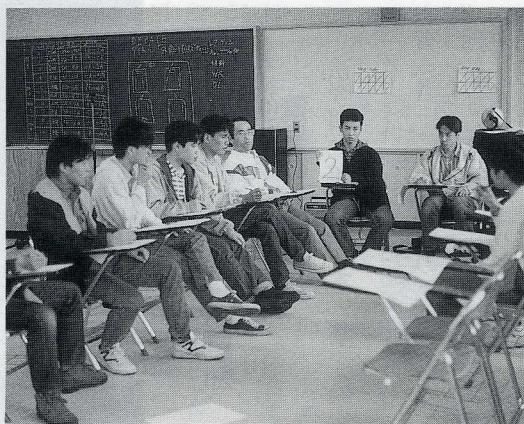


経済学部オリエンテーション・キャンプ

法学部

オリエンテーション・キャンプ

経済学部広報委員 石田三樹



て、教官十七名、事務官一名の参加を得ることができた。

今回のオリ・キャンの主な目的は、

新入生が早く広島大学の学生生活に慣れ友人を作ることを助けること、および教官とのふれあいを通じて学習へのとりくみ姿勢をはやく形成することにおされた。このため、各教官がそれ

ぞ十三名程度からなる学生グループ

にはりつき、完全に同一行動をとることとした。この結果、夕食の準備から

夕食、キャンプファイヤー後のミニファイ

ヤーに至る過程で、楽しいながらも有意義な時間を過ごし学生と教官との

ふれあいの場を持つことができたことは特筆に値する。

また、全体行事としては、ゲーム等

のレクリエーションや、「外食がよいか自炊がよいか」をテーマとするディベートが企画され、活発な活動・議論が続いた。

経済学部オリエンテーションキャンプは、経済学部主催のもとオリキャン実行委員会が実行主体となり、四月二十四日(土)と二十五日(日)の両日にわたり、安佐北区の広島市青少年野外活動センターで行われた。昼間部ではフエロー・スタッフ約三十名、新入生約四十名が参加し、夜間部(法学部を含む)ではフエロー・スタッフ約三十名、新入生約百名が参加した。これに加え

参加者の感想には次のようなものがあつた。

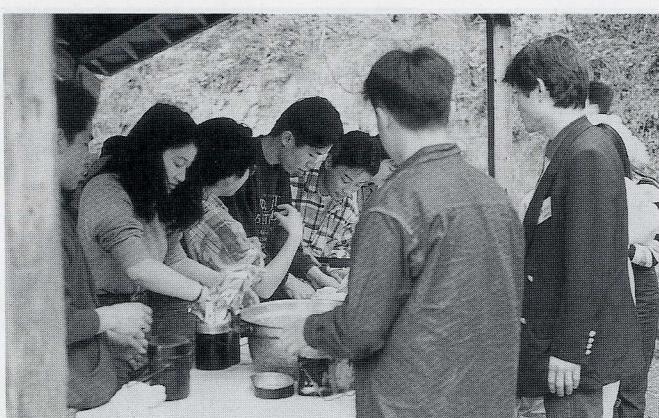
・新入生の声
「友達ができてよかったです。」「上級生から大学生活の心構えを教えてもらえてよかったです。」「教官のパーソナリティーがわかつてよかったです。」

「はじめて他人のために自分を犠牲にするような経験ができるよかったです。」「エロー、スタッフの声

「学部のアイデンティティをつくる上で何らかの効果はあった。」「学部単位でオリキャンを開催することで参加者相互間に濃密なふれあいをつくることができた」など。

・教官の声

「学部のアイデンティティをつくる上で何らかの効果はあった。」「学部単位でオリキャンを開催することで参加者相互間に濃密なふれあいをつくることができた」など。



上述の目的を達成するため、準備段階で学生側と教官側のそれぞれの代表の間で協議が数回行われた。ただ、スタッフやフエローにキャンプのノウハウが無く、時間も差し迫っていたため準備不足があったことは否めない。全体としては、雨で予定していた行事に多少の遅れがあったものの、事故やトラブルは一切なく、参加者全員に十分満足のいくものであつたことを信じて疑はない。翌月曜日、参加教官の授業に第一限目でありながら学生が殺到し、超満員であつたことなどはオリキャン成功の証拠のうちのほんの一例にすぎない。